

運動好きな子どもの育成 ～自己決定を大切にした取り組み～

大分県日田市立高瀬小学校

全校児童数	180名(男子90名 女子90名)		
全クラス数	9	教職員数	20名
体育専科教員訪問学校数			3校
訪問校	日田市立三芳小学校・日田市立若宮小学校・日田市立有田小学校		
体育専科教員名		岩崎 敬	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

◆運動嫌いな子が固定されており、学年が上がるにつれて外遊びをする子が減少する傾向にある。

◆「運動が好きですか」のアンケートに「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と否定的に答える児童が昨年度末は7.7%だった。

2 取組の計画

① 体育授業の改善

- ・タブレット端末を使い、すべての子に学びの履歴を可視化させるとともに、一人ひとりの子どものつぶやきを拾っていく。(添削→再考→授業→評価)
- ・T.T体制の充実。(授業をしながら体育情報の共有)

② 教具の充実

- ・ラインテープの大量購入。(授業でのコートを多数作成)
- ・ボールは子どもの実態に合わせて作成。(新聞紙を丸めてレジ袋で包んだレジボールを活用)
- ・カラーコーン、バーの活用。(ゴール型ゲームのゴールやネット型ゲームのネットがわりにも活用)

③ 情報発信

- ・学校HPに体育専科の取組コーナーの設置。
- ・体育専科教員の公開授業による、校内職員の授業研究。

Do：実践内容

1 体育授業の改善

(1) 生徒指導の三機能取り入れた取組

- ① 水泳、保健、持久走などでは、学び方から自己決定させ、各自のペースで学習できるようにした。
- ② 授業の中で自己存在感を高めるため、作戦ボードやシンキングツールなどを一人ひとりに活用させた。
- ③ 共感的人間関係を意識してグルーピングを行った。

(2) T2の先生と共有クラウドの活用

- ① 単元前半では体育専科がT1をし、T2の先生が授業の写真や動画を撮り、入力してもらった。
- ② 単元後半や体育専科教員不在時は、共有クラウドを資料にし、T1とT2の入替授業を行なった。

(3) 準備運動の工夫

- ① 肉体的な運動の準備だけでなく、心理的な運動の準備にもなるようにアクティブチャイルドプログラムを積極的に取り入れた。
- ② 準備運動の説明に時間が取られないよう、体育館の授業においては、プロジェクターに投影して、分かりやすいように説明した。

●工夫したこと(&苦労した点)

- ① 全学年の全時間において授業記録をとって共有クラウド(ロイロノートの共有ノート)に残してきた。
- ② 子どもたちにも毎時間、授業の振り返りを記録し提出してもらった。

Check：取組の成果

- ① 子どもたちから、「体育が好き」「体育が楽しい」という声が、今まで同様に聞くことができた。
- ② 子どもたちに自己決定場面を多く取り入れた結果、どの学年も、主体的に学習に取り組む様子が見られた。
- ③ 普段T2をしている担任の先生の体育授業を見ることは、体育専科教員には無い新しい視点を得る上で、とても有効だった。

Action：今後の課題

- ① 二学期末現在、「運動が好きですか」のアンケートには「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と否定的に答える児童が6.8%いた。体育は好きだが運動やスポーツはどうかと聞くと「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と答える児童も一定数いた。
子どもたちの、生涯にわたっての豊かなスポーツライフの実現を考えると、運動やスポーツのネガティブなイメージを払しょくしなければならない。体育授業以外の別の手立てが必要と感じている。

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

体育授業で自己決定場面を作ることは、一人ひとりの内発的動機づけを高めることにもなり、自然に運動量が増えていった。このことは、体力向上、技能向上だけでなく、自己効力感や自己有能感の認知につながっている可能性がある。

体育 × 生徒指導の三機能の授業例

1. 自己決定：「自分で選んでいる」



内発的動機づけの高まり

運動量の増加



自発的に、基本練習や柔軟運動に取り組み出す

2. 自己存在感：「できるようになった」



運動量が成果となって現れる

3. 共感的人間関係：「仲間とつながっている」



撮影し合う環境づくり

話し合える環境づくり

※自己決定理論 (エドワード・L・デシ、リチャード・M・ライアン)